

認定事業者NEWS

ニュース

◀ 令和 7 年度中における地下タンク等定期点検の現況 ▶

地下タンク等定期点検認定事業者から報告された、「令和 7 年度中の定期点検の実施状況について」とりまとめました。

1 危険物施設の点検状況（表 1）

令和 7 年度中の点検施設数の合計は 62,697 件、タンク基数の合計は 107,435 基でした。この内、異常ありのタンク基数の割合を施設種別ごとにみると、製造所は 345 基中 2 基で 0.6%、地下タンク貯蔵所は 41,874 基中 326 基で 0.8%、給油取扱所は、56,565 基中 209 基で 0.4%、一般取扱所は 7,172 基中 40 基で 0.6%となっています。少量危険物施設の異常ありの割合は、1,479 基中 32 基で 2.2%となっています。

表 1 危険物施設の点検状況

施設種別		点検施設数	タンク基数	異常ありの点検施設数 (%)	異常ありのタンク基数 (%)
製 造 所		284 件	345 基	1 件 (0.4%)	2 基 (0.6%)
貯蔵所	地下タンク貯蔵所	34,489 件	41,874 基	366 件 (1.1%)	326 基 (0.8%)
	屋外タンク貯蔵所※	310 件		5 件 (1.6%)	
	屋内タンク貯蔵所※	93 件		2 件 (2.2%)	
取扱所	給油取扱所	20,058 件	56,565 基	191 件 (1.0%)	209 基 (0.4%)
	一般取扱所	6,042 件	7,172 基	45 件 (0.7%)	40 基 (0.6%)
少量危険物取扱所		1,421 件	1,479 基	39 件 (2.7%)	32 基 (2.2%)
合 計		62,697 件	107,435 基	649 件 (1.0%)	609 基 (0.6%)

※ 屋外タンク貯蔵所及び屋内タンク貯蔵所は、配管のみの点検状況です。

— 認定事業者ニュース —

令和 7 年度中における地下タンク等定期点検の現況	1
令和 7 年度中における移動貯蔵タンク定期点検の現況	4
ヒヤリ・ハット集	5
全国危険物安全協会からのお知らせ	8

No. 51

////////////////////////////////////

発行所

令和 8 年 10 月 1 日発行
発行所 一般財団法人全国危険物安全協会
〒105-0001 東京都港区虎ノ門
2-9-16 日本消防会館 8F
TEL 03(5962)8921
03(5962)8923(業務課直通)
email:gyoumu@zenkikyo.or.jp
HP https://www.zenkikyo.or.jp

2 地下タンク・地下埋設配管の点検方法の状況（表2）

タンク又はタンクと配管の点検方法では、微加圧法が最も多く、それに伴い液相部点検も多くなっています。その他の方法では、SIR（統計学的在庫管理）による点検が多くなっています。

表2 地下貯蔵タンク・地下埋設配管点検方法

			タンク又はタンクと 配管の実施件数	配管単独	検知層
点 検 数			171,990 件	49,594 件	17,840 件
点 検 方 法	加圧法	異常なし	9,036 件	9,191 件	2,339 件
		異常あり	158 件	187 件	45 件
	微加圧法	異常なし	79,573 件	659 件	
		異常あり	396 件	23 件	
	微減圧法	異常なし	5,165 件	65 件	
		異常あり	40 件	0 件	
	減圧法	異常なし			15,176 件
		異常あり			272 件
	液相部点検	異常なし	57,738 件		
		異常あり	66 件		
	その他の方法	異常なし	19,802 件	39,464 件	8 件
		異常あり	16 件	5 件	0 件

3 タンク等の異常箇所（表3）

異常箇所の合計は 865 件で、タンク本体の異常が認められた箇所は 240 件あり、このうち気相部が 202 件と 84.2%を占めています。配管の異常は 340 件であり、このうち吸引管が 118 件と 49.2%を占めています。また、通気管の異常も 214 件となっています。

配管と通気管を合わせた異常件数は、554 件となっており、異常箇所全体（タンク本体及び配管以外を除く）の 64.0%を占めており、タンク本体と配管及び通気管を同時に点検した結果、異常が認められた場合は、配管及び通気管に重点をおいて確認することも重要です。

一方、二重殻タンクの検知層の異常も 32 件認められているので、点検に際しては埋設後の経過年数が比較的浅いタンクにおいても十分注意して行う必要があります。

表3 タンク等の異常箇所

タンク 本 体	異常箇所	件数	配 管	異常箇所	件数
	タンク本体気相部	202 件		吸引管	118 件
	タンク本体液相部	6 件		注入管	83 件
	二重殻タンクの検知層	32 件		その他の油配管	139 件
	計	240 件		計	340 件
タンク本体、配管及び通気管以外		71 件	通 気 管		214 件
合 計					865 件

4 点検後の処置状況の把握（表4）

異常が認められたものについての処置状況の報告があった814件のうち、点検後の処置状況を把握していたのは365件（44.8%）であり、このうち点検を実施した認定事業者が修理まで行っていたのは226件（61.9%）となっています。

点検後の処置状況の把握なしのうち、異常の有無のみを報告したが、その後の処置は不明となっている例が149件ありました。異常が発見された場合は、設置者に異常箇所に対する措置などについてアドバイスすることも認定事業者として必要です。

表4 点検後の処置状況の把握

点検後の処置 状 況 の 把 握	処 置 内 容	件 数
把握なし	異常の有無のみ報告したが、その後の処置は不明	149
	異常の有無のみ報告したが、自社での異常箇所特定は困難であった。	32
	異常の有無のみを報告し、その後再点検を実施した。	71
	異常箇所を特定して報告のみした。	197
	計	449
把握あり	異常箇所を特定し報告した後、認定事業者が修理した。	226
	異常箇所を特定し報告した後、設置者が業者に依頼し修理した。	117
	異常箇所を特定し報告したが、修理不能であった。	22
	計	365
合 計		814

◀ 令和 7 年度中における移動貯蔵タンク定期点検の現況 ▶

移動貯蔵タンク定期点検認定事業者の皆様から報告された「令和 7 年度中の定期点検の実施状況について」とりまとめました。

1 移動貯蔵タンクの点検状況（表 5）

点検タンク数の合計 9,358 基は、ガス加圧法 9,322 基、液体加圧法 36 基によるものでした。直接法及びその他の方法はありませんでした。（表 5）

表 5 点検方法の状況

移動タンク貯蔵所の種類			単一車式		被けん引車式	
			積載式	積載式以外	積載式	積載式以外
点 検 タ ン ク 数			2,406 基	6,084 基	316 基	552 基
点 検 方 法	ガス加圧法	異常なし	2,340 基	4,757 基	292 基	511 基
		異常あり	60 基	1298 基	24 基	40 基
	液体加圧法	異常なし	6 基	29 基	0 基	1 基
		異常あり	0 基	0 基	0 基	0 基
	直接法	異常なし	0 基	0 基	0 基	0 基
		異常あり	0 基	0 基	0 基	0 基
全 点 検 タ ン ク 数			9,358 基			

2 タンクの異常箇所（表 6）

異常箇所の合計は 250 件で、このうちパッキン類の異常が 215 件であり 86.0% を占めています。

認定事業者によっては、新しいパッキンに取り替えてから、漏れの点検を実施するところもありますが、異常が認められた場合は、パッキン類の確認を優先して行うことが重要です。

表 6 タンクの異常箇所

タンク本体		パッキン類		付属設備	
胴体又は鏡板部 腐食亀裂等	4 件	マンホールパッキン	83 件	マンホール	5 件
防護枠又は側面枠 取付部腐食亀裂等	0 件	底弁パッキン	43 件	底弁	7 件
タンク下部取付台座 周囲腐食等	0 件	計量口パッキン	46 件	計量口	8 件
その他のタンク本体 に係る腐食亀裂等	2 件	その他パッキン	43 件	その他付属設備	9 件
計	6 件	計	215 件	計	29 件
合 計					250 件

3 点検後の処置状況の把握（表7）

異常が認められたものについての処置状況の報告があった247件のうち、点検後に処置状況を把握していたのは221件（89.5%）で、このうち点検を実施した認定事業者が修理まで行ったのは202件（91.4%）となっています。

表7 点検後の処置状況の把握

点検後の処置 状況の把握	処 置 内 容	件 数
把握なし	異常の有無のみ報告したが、その後の処置は不明。	14
	異常の有無のみを報告したが、自社での異常箇所特定は困難であった。	2
	異常の有無のみを報告し、その後再点検を実施した。	10
	異常箇所を特定し報告のみした。	0
	計	26
把握あり	異常箇所を特定し報告した後、認定事業者が修理した。	202
	異常箇所を特定し報告した後、設置者が他業者に依頼し修理した。	19
	異常箇所を特定し報告したが、修理不能であった。	0
	計	221
合 計		247

◀ ヒヤリ・ハット集 ▶

認定事業者の皆様から寄せられた点検時のヒヤリ・ハットをとりまとめました。

【地下タンク等に関するヒヤリ・ハット】

内 容	件 数
転倒・転落等安全管理に関するヒヤリ・ハット	41
工具等の落下に関するヒヤリ・ハット	14
作業環境に関するヒヤリ・ハット	2
点検作業中のヒヤリ・ハット	21
その他	16
計	94

地下タンク等に関するヒヤリ・ハットは、転倒・転落等安全管理に関するヒヤリ・ハットが一番多く発生しており、次いで点検作業中に関するヒヤリ・ハットとなっています。主なヒヤリ・ハットの内容は次のとおりです。

1 転倒・転落等に関するヒヤリ・ハット

- ・ 通気口の取り外し時にパイプレンチに力を入れたところ、手が滑りバランスを崩してハシゴより落下しそうになった。

- ・ 通気配管支持金具が老朽化の為、破損・脱落しバランスを崩して脚立より転倒しそうになった。
- ・ 通気管頭部に検査治具を設置する際、梯子から転落しかけたが安全帯を着用していたためヒヤリはしたが特に問題はなかった。
- ・ 積雪のため地下タンク横にあった側溝に気づかず、足がとられ転倒しそうになった。

2 工具等の落下に関するヒヤリ・ハット

- ・ 報告書用の写真を撮影している際に、高所からやタンク内にカメラを落としそうになった。
- ・ 通気管ヘッドの交換時に梯子にかけた工具袋が落下し、下にいた作業員に当たりそうになった。
- ・ 通気管閉鎖時、通気笠を取外し落としそうになった。

3 作業環境に関するヒヤリ・ハット

- ・ 地面インターロッキングに設置されている角マンホールのさらに下に設置された地下タンクマンホール蓋が大きく重量があり、開放するまで時間を要した。
- ・ S F二重殻タンクの外殻検知層・検知部に設置されているマンホールの径が小さく深く作業が困難であった。換気をしながら、酸素濃度ガス検知器を使用して複数名で実施した。

4 点検作業中のヒヤリ・ハット

- ・ 液面計取り外し時に破損しそうになった。
- ・ タンク内のドロップパイプに頭をぶつけそうになった。
- ・ 減圧ポンプの操作を誤り、検知層への減圧が急になり破損させそうになった。
- ・ 点検を実施するために確認すると、配管が腐食により折れた。

5 その他のヒヤリ・ハット

- ・ 夏場の作業中、暑さにより朦朧として倒れそうになった。
- ・ 点検業務対応中、第三者がバリケード内に侵入しマンホール開口部へ落下しそうになった。
- ・ 給油取扱所にてカラーコーンと安全バーを使用していたにもかかわらず、車がかなり近くまで接近してきた。
- ・ 試運転時に本来自動で止まるはずのスイッチが止まらなかった。原因はサービスタンクのフロートが固着しており動きが悪かった。2人作業で行っていたため、漏油は防げた。
- ・ 点検のため現場へ行くとS I Rが導入されていた。

【移動タンクに関するヒヤリ・ハット】

内 容	件 数
転倒・転落等安全管理に関するヒヤリ・ハット	23
作業環境に関するヒヤリ・ハット	3
工具等の落下に関するヒヤリ・ハット	6
点検作業中のヒヤリ・ハット	4
その他	6
計	42

移動タンクに関するヒヤリ・ハットは、タンク上部で作業中に転倒・転落など安全管理に関することが一番多く発生しており、次いで工具等の落下に関するヒヤリ・ハット、点検作業中のヒヤリ・ハット、作業環境に関するヒヤリ・ハットとなっています。主なヒヤリ・ハットの内容は次のとおりです。

1 転倒・転落等安全管理に関するヒヤリ・ハット

- ・ 大型タンクローリー上部作業時にマンホール等につまづき転倒しそうになった。
- ・ タンク上部で、強風にあおられバランスを崩し、落下しそうになり、ヒヤリとした。
- ・ 雨天時に検査を行ない、タンク上部より雨水で滑り落下しそうになった。

2 作業環境に関するヒヤリ・ハット

- ・ 天井の低い車庫での作業中、タンク上部で作業中立ち上がった際、鉄骨の梁に頭が当たった。ヘルメット着用し軽く当たった為、ケガは無かった。
- ・ 天井の低い車庫での作業中、タンク上部で作業中立ち上がった際、鉄骨の梁に頭が当たった。

3 工具等の落下に関するヒヤリ・ハット

- ・ 安全弁の点検をするのにローリー上から降ろす際、作業手袋に油が付着していて安全弁を落としそうになった。
- ・ タンク上部に点検治具、工具等を置いた時に、安定せず道具類が落下しそうになった。

4 点検作業中のヒヤリ・ハット

- ・ 使用工具の選定を間違えて指を挟みそうになった。
- ・ 加圧してあったタンクの検査を終了する際、加圧接続口から窒素を抜く作業をする前にマンホール注入口を開けそうになった。
- ・ ホースの接続がしっかりとされていなくて圧力をかけすぎてしまいそうになった。

5 その他のヒヤリ・ハット

- ・ 夏場の作業中に、暑さにより朦朧として足元がおぼつかないことがあった。
- ・ 検査日が6月～9月に集中し暑い日が多かった為、熱中症対策でこまめに水分を補給し、タンク上部で作業を行っていたが、汗が目に入り眼が見えにくくなって危険を感じた事があった。
- ・ タンク上部の作業時熱中症になりそうになった。
- ・ タンク検査用のコンピューターが古くなっており検査中にコンピューターがフリーズする事があり検査をやり直す事があった。検査機器のみならずコンピューターも数年で更新していく必要があると感じた。(現在はアップデートし問題なく検査出来ています。)

ヒヤリ・ハットは、一歩間違えれば大事故につながる危険性があります。これらヒヤリ・ハットは、ヒューマンエラーに起因するものが多く、十分な対策や工夫をしていけば防げるものがほとんどです。

ヒヤリ・ハット体験は、作業前や終業時のミーティングなどで、皆さんでその対策を考え、事故防止に努めていただきたいと思います。

◀ 全国危険物安全協会からのお知らせ ▶

1 令和7年度の事故状況

令和7年度の危険物施設での火災事故件数は、火災事故が261件（前年267件）、流出事故が448件（前年486件）となっています。このうち、重大事故については、火災事故が10件（前年11件）、流出事故が10件（前年12件）発生いたしました。

昨年度は全国危険物安全協会へ重大な事故の報告はありませんでした。引き続き事故防止に十分に注意をしていただくとともに、軽微な事故でも人身事故を発生させないように注意してください。

2 点検中の事故報告について

万が一、事故が発生した場合は、全国危険物安全協会のホームページにある点検事故報告書「様式第36号」を活用し、報告してください。

3 圧力点検済証の貼付について

圧力点検済証の貼付は、よく見える場所に点検した年度のものを1枚貼付てください。

4 メールマガジンのメールアドレス変更について

https://zenkikyo.net/p/change_user_mail/W1B3RmV6

上記にアクセスしていただき、現在ご登録されているメールアドレスを変更前メールアドレスに入力していただき、新しいメールアドレスをご登録ください。



The screenshot shows a web browser window with the URL https://zenkikyo.net/p/change_user_mail/W1B3RmV6. The page has a blue header with the title "ユーザーメールアドレス変更フォーム" (User Email Address Change Form). Below the header, there is a instruction: "メールアドレスを入力して「変更」ボタンを押してください。" (Enter the email address and press the "Change" button). The form consists of three input fields with labels on the left: "変更前メールアドレス" (Current email address), "新しいメールアドレス" (New email address), and "新しいメールアドレス(確認用)" (New email address (confirmation)). At the bottom of the form is a black button with the white text "変更" (Change).

万が一、変更ができない場合は、全国危険物安全協会業務課まで、メールマガジンのアドレスを変更したい旨、nintei-j@zenkikyo.or.jp に、認定番号、認定事業者名、現在のご登録のアドレスと新たに登録したいアドレスをご連絡ください。